

1 園の教育方針

・幼稚園の姿

子どもは「幼稚園に来るのが楽しい」、保護者は「通わせて良かった」、地域の人は「通わせたい」、そして教職員は「勤めるのが楽しい」「勤めてよかった」と、関わるすべての人がそのように思う幼稚園を目指します。

・育てるべき子ども像

「心身ともにたくましい子ども」、すなわち、かしこさ（知）、やさしさ（徳）、たくましさ（体）の調和のとれた子ども、特に、小学校教育の基盤となる資質・能力を持った子どもを育成します。

・求める教職員像

すべての教職員が互いの特徴（得意・不得意）を理解し合った上で、各々の良さが生かされる関係づくりを構築していきます。特に、働き方改革を進める中、限られた時間内で優先すべき事柄は何かを考えつつ、他者と協働して教育や業務に取り組みます。また、自身の保育や研究についての取り組みを常に相対化する姿勢を持って様々な意見や実践に対して耳を傾けるとともに、スキルアップのための研修に自ら取り組みます。

2 今年度の重点目標と具体的取組

コロナ感染対策が通常に戻る中で、コロナ以前の保育に戻すだけでなく、コロナ禍を経て学んだ「当たり前」からの脱却を目指します。また、少子化が加速し、共働き世帯がさらに増加している中で、幼稚園教育の必要性・重要性を地域に発信していく中で、園児の確保に務めます。

具体的には、「魅力的な園づくり」「園の魅力の発信」の2本柱を設定して取り組みます。

（1）魅力的な園づくり

1) 多様な人材が生かされる園内組織・集団づくり

①「経営・管理（マネジメント）部門」と「保育（インストラクト）部門」の設定・棲み分け

管理職（園長と副園長）が主に経営・管理（附属学校間との連携、並びに対外的な調整や折衝等）に注力することで、各教員が「日々の保育の充実・活性化」「先導的な実践研究」、そして「将来教員となる学生の実習指導」に取り組むことができる環境を整える。なお、教務主任は管理職と教員の間、さらには多様な教員間の意見集約や調整を行う役割を担う。

②教員会議の簡略化・短時間化、並びにペーパーレス化

働き方改革の一層の推進に向けて、効率的な教員会議を行うべく、管理職と教務主任は時間を区切った会議設定をするとともに、議題の精選を行う（協議・審議すべき内容を明確にし、報告事項は簡略化する）。具体的には、教員は共有フォルダー等を積極的に活用して文書の配布は控えてペーパーレスに努め、会議資料は事前に目を通しておく。また、管理職は今年度から配置された校務支援員のサポートを有効に活用して、不要な時間外勤務を生み出すことなく、附属学校園教員の本来的業務(上記3つ)に教員が注力できる仕組みを作る。

③校務支援システムの導入

幼稚園の保育に関わる様々な業務を一元管理する、校務支援システムを2学期から運用させることにより、働き方改革を一層推進させる。

2) 新たな保育実践創出への取組

①担任の個性が活かされた保育の実現

新しい教員を迎えて担任の半数が交代した今年度は、従来から園が大事にしてきた、「うれしのタイムを中心とした保育（学級・学年の枠を越えた活動）」を継続実施していくと同時に、各担任が持つ特長・良さが反映された保育（学級活動や学級づくり）にも取り組む。そのことにより、子どもが多様な遊び環境に触れるだけでなく、教員間で互いが刺激を得て新たな実践の契機となりうることを期待する。

②ICTを活用した保育の推進

本園がこれまで重視してきた実体験を補助し、経験を拡張する上でも、今後ICTの効果的活用は不可欠となるが、この点について本園は先駆的な取組をしていると言える現状ではない。そこで今年度は、ICT担当教員を明確に位置付けて、この実践に関する中心的教員の育成を図る。

③小学校（教育）とのスムーズな連結

附属小学校に限らず小学校における教育内容を再確認することで、子どもがスムーズに小学校に上がることができるよう、幼稚園での保育内容を点検する。また、附属小学校との交流・連携を一層深めるとともに、保護者に対して情報提供と進学相談を積極的に行う。

④教員の研修の保障と充実

教員のスキルアップのために、学期に1回は研修機会（他園の保育の参観、研究会への参加等）を各自が設定できるようにする。

3) 幼年教育・発達支援コースとの連携

本園の強みである幼児教育の専門家である大学教員と定期的に会合を持つ中で、実践研究に対する示唆を継続的に得るとともに、大学のミッションである「教員養成」に対して園として貢献できることを行っていく。

4) 親育てへの取り組み

在園児の保護者、さらには未就園児保護者に対して、子離れが進むよう、適切なタイミングや事柄で、全体

にそして個別に指導をしていく。具体的には、「子育てひろば」を月1回程度開催していく。

(2) 園の魅力の発信

全国的に幼稚園教育が危機に瀕している状況下で、預かり保育を含めた、本園事業の詳細を園外・地域に周知するべく、広報の充実・活性化をねらった以下の取組を行い、園児確保に繋げる。

1) オープンスクールの新規実施

新入園児確保に向けて、家族で来園できるよう、土曜日にオープンスクールを開催する。

2) 園の公式 HP の刷新

HP のトップページの構成を改め、本園の特徴（日々の保育の様子発信、預かり保育の実施等）を見やすくする。

3) SNS の新規開設

若い保護者世代に本園の存在を周知する手段として、公式インスタグラムを新規開設し、来園せずとも保育の様子を知ることができるようにする。

4) 企業型主導保育園・所への宣伝・広報活動

これまでアプローチしていなかった、北播磨地域の企業型主導保育園・所（0歳～2歳児までの保育を実施）をターゲットに本園の存在を周知すべく、宣伝・広報活動を行う。